

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

# JSAソフトボール

2025年/令和7年

## 第481号

3月号

(毎月1回10日発行)

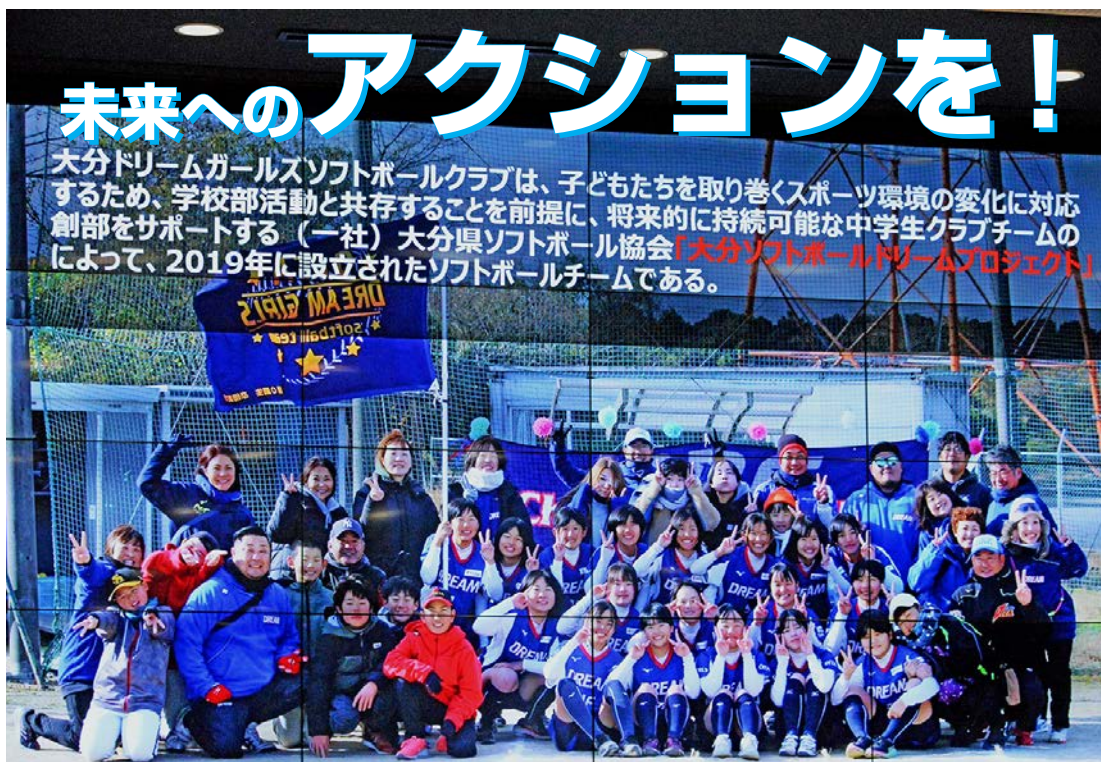
編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L . 03-5843-0480 F A X . 03-5843-0485

編集部 ㈱日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L . 03-3811-6911 F A X . 03-3811-6290



## 未来へのアクションを!

大分ドリームガールズソフトボールクラブは、子どもたちを取り巻くスポーツ環境の変化に対応するため、学校部活動と共存することを前提に、将来的に持続可能な中学生クラブチームの創部をサポートする(一社)大分県ソフトボール協会「大分ソフトボールドリームプロジェクト」によって、2019年に設立されたソフトボールチームである。

「令和6年度全国指導者中央研修会」にて紹介された、大分県協会のドリームプロジェクト

### C o n t e n t s

・令和6年度全国指導者中央研修会 ..... 2	・令和6年度臨時理事会議事録 ..... 9
・ソフトボールコーチプレミアムサミット2024 ..... 4	・令和6年度臨時評議員会議事録 ..... 10
・審判ルール委員会・記録委員会 合同会議 ..... 6	・令和6年度第9回理事会議事録 ..... 11
	・事務局だより ..... 16

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ

[www.softball.or.jp](http://www.softball.or.jp)

# 令和6年度 全国指導者中央研修会



全国の指導者の代表が参集。  
指導者の「**今後**」を考える！

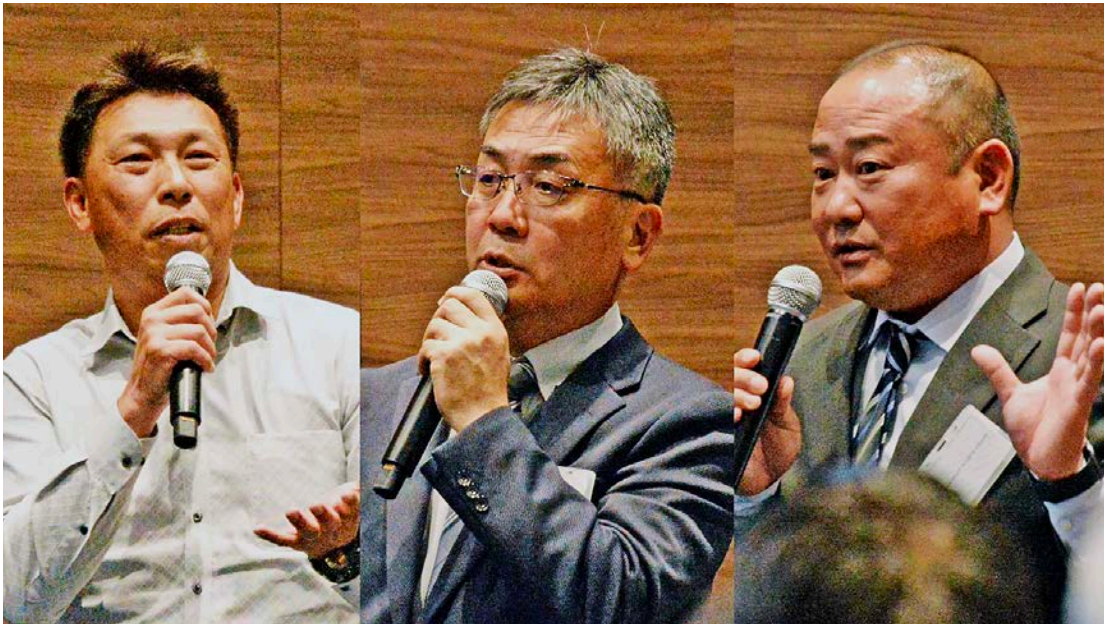


令和6年度全国指導者中央研修会が、去る2月8日（土）・9日（日）の両日、東京・Japan Sport Olympic Squareにおいて開催された。

研修会には、（公財）日本ソフトボール協会指導者委員会をはじめ、全国各都道府県支部協会の指導者委員長ら計41名が参加。ソフトボールの普及・振興を図る上で極めて重要な役割を担っている全国の指導者の代表が、ソフトボール指導者として「今後どうあるべきか」を考えるとともに、より「主体性」を持った指導者養成の体制づくりを推進させるべく、活発な意見交換を行った。

また、大きく変動する社会の中でソフトボール指導者の現場での課題を洗い出し、社会から「真に求められる指導者」を養成していくため、今後どのようなことに取り組んでいかなければならないのかを議論。全国から集まった代表者たちがそれぞれ考えを持ち寄り、さまざまな分野について熱く語り合う場となった。

研修会初日は昨今推進される「部活動の地域移行」を受けて、富山県・關根邦明氏、愛知県・井ノ口敏功氏、大分県・高橋秀幸氏の3名が「部活動の地域移行に関わる新たなクラブ運営やアカデミー等の運営（運営の工夫、指



「部活動の地域移行」に関わる新たな取り組みを発表（※左から、井ノ口敏功氏、關根邦明氏、高橋秀幸氏）



「体罰防止に向けた取り組み」をテーマに、日本体育大学教授・南部さおり氏が講演

導者の養成・育成・役割)について」事例発表。その後全国各ブロックに分かれての地区別研修会を実施し、「指導者養成事業や育成事業における課題の共有と改善策」をテーマに活発に意見交換。

研修会2日目は、日本体育大学スポーツ文化学部武道教育学科教授の南部さおり氏が「体罰防止に向けた取り組み」をテーマに講演。講演の後は再び地区別研修会を行い、同テーマ(体罰防止に向けた取り組み)について討議。討議後は各グループの代表者がそれぞれ意見を発表し、各々の現場の実情、指導における経験談を積極的に伝え合いながら、自分たちが中心になってこの問題を根絶していこうとする「熱意ある姿勢」が感じられる研修となった。



指導者資格の周知、指導者制度の発展にも「目」を向けて！前進を!!

令和6年度

全国指導者中央研修会の詳細は、日本協会オフィシャルサイトで！

[www.softball.or.jp](http://www.softball.or.jp)

# ソフトボールコーチプレミアムサミット 2024



去る1月19日（日）、「ソフトボールコーチプレミアムサミット2024」が（公財）日本ソフトボール協会主催で東京・日本青年館ホテルを会場に開催され、JSPPO（公益財団法人日本スポーツ協会）「公認ソフトボールコーチ3」または「コーチ4」の有資格者を対象とし、実施された。

（公財）日本ソフトボール協会では、競技種別のみならず、学生種別や生涯種別においても公認指導者資格の取得・運用を広く制度化し、ソフトボールコーチの資質向上に努めており、一方で、この制度・施策は「資格の取得自体を目的とするものではなく、グッドコーチ育成の手段となるべきものである」との理念のもと、「取得後の自己研鑽や切磋琢磨によって成長し続けること」を願い、長年指導者委員会で構想を温めてきた「ソフトボールコーチプレミアムサミット2024」を実現するに至った。

本サミットは、ソフトボールコーチのコーチングスキル向上と情報共有を目的として、男子ソフトボール及び女子U18のスタッフやJ.D.リーグチャンピオンチーム、他競技のトップコーチとのディスカッションを行うことにより、日本のみならず世界のソフトボ



男子TOP・男子U18、女子U18日本代表ヘッドコーチ、JD、リーグチャンピオンチーム前監督によるパネルディスカッション



サッカー、柔道、バレーボール、異なる競技の指導者資格、選手指導・育成システムの「先進事例」に耳を傾け、研究・実践

ールの動向・情勢、また、国際大会、「世界の舞台」をめざしていく上での選手育成に必要な要素・条件、そこで戦う上での戦術・戦略等、「日本代表」チームのビジョン・方向性への共通理解・共通認識を図り、同時に、ソフトボールのみならず他競技の選手育成、指導現場の現状を知ることにより、ソフトボールの置かれている「現状・現実」と向き合い、ソフトボールに「足りないもの」、ソフトボールが「めざすべき場所」を明確にし、ソフトボール競技のさらなる普及、発展に寄与することができるコーチの育成をめざしていこうという趣旨のもと開催された。

午前中は、「トップレベルのソフトボールコーチによるパネルディスカッション」が行われ、男子TOP日本代表・江口真史ヘッドコーチ(トヨタ自動車)、男子U18日本代表・田中徹浩ヘッドコーチ(新島学園高校/群馬)、女子U18日本代表・佐藤洋介ヘッドコーチ(花巻南高校/岩手)、昨シーズンまでJDリーグ・トヨタレッドテ

リアーズの監督としてチームを率い、3シーズンで2度のリーグ優勝「連覇」を成し遂げ、勇退した馬場幸子氏もパネリストに加わり、登壇。モデレーターを(公財)日本ソフトボール協会・鎌田英樹指導者副委員長、ファシリテ

ーターを二瓶雄樹氏(中京大学女子ソフトボール部監督)が務め、「次世代を切り拓くコーチング」育成と強化のシームレスな連携に向けて」と題し、パネルディスカッションが行われた。

昼食を挟み、午後は「他競技のトップコーチによるパネルディスカッション」を実施。「わたしのコーチング」競技における普遍性と独自性」と題し、コーディネーターを(公財)日本ソフトボール協会・柳田信也指導者委員が務め、FC東京アカデミー・ヘッドオブコーチの西川誠太氏、淑徳大学柔道部監督で前・柔道全日本女子ジュニアヘッドコーチの野瀬英豪氏、早稲田大学教授で男子バレーボール部監督の松井泰二氏がパネリストとなり、パネルディスカッションを実施。それを受け、熱心な質疑応答も行われた。

今後、この「ソフトボールコーチプレミアムサミット」が継続され、さらに内容をブラッシュアップし、より実り多きものとなり、ソフトボール界を牽引していく「起爆剤」となることを祈念し、期待したい。

ソフトボールコーチ  
プレミアムサミット2024  
詳細はこちら

# 審判ルール委員会・記録委員会 合同会議



2025  
オフィシャル ソフトボール ルール

# 改正点



2025  
競技者必携

## 審判の部 記録の部

改訂・修正点  
改訂・修正点



去る2月8日（土）・9日（日）、来るべき「ソフトボールシーズン」の幕開けに備え、「審判ルール委員会・記録委員会 合同会議」が、JSSOS（Japan Sport Olympic Square）3階会議室で開催された。この合同会議には、（公財）日本ソフトボール協会・岡本友章専務理事兼事務局長、同協会・西康弘常務理事・事業運営本部長も出席。ここでは、2025「オフィシャルソフトボールルール」改正点、同「競技者必携」改訂・修正点が出席者全員で入念に確認された。

※画像をクリックするとルール改正点・競技者必携改訂・修正点の詳細資料がご覧になります

続いて「代替プレイヤールール」の適用について、次のような事例をもとに、両委員会のルール適用に関する統一見解が示された。

【状況】スターティングプレイヤーAは、1回表の守備中に出血を伴うケガをし、代替プレイヤーBが出場している。

Q 1 1回裏、代替プレイヤーBに代わり、控え選手Cを代打もしくは代走として起用することは認められるか？

A 1 認められる。この場合、スターティングプレイヤーAとの「正規の交代」となる。Aが試合に戻るには「再出場」の権利を行使することになる。

Q 2 1回裏、代替プレイヤーBが出血を伴うケガした場合、控え選手Cは代替プレイヤーになれるか？

A 2 代替プレイヤーに対しての代替プレイヤーは認められない。Bが出血を伴うケガをした時点で、攻撃側の監督はスターティングプレイヤーAに代わり、「正規の交代」として控え選手Cと選手交代するか、Aが止血していれば試合に戻すかの選択をしなければならない。なおAが止血できておらず、控え選手Cを「正規の交代」として出場させた場合は、次にAが試合に戻るには「再出場」の権利を行使して試合に戻らなければならない。

※「頭部外傷」の場合も同様とするが、これは日本独自のルールである。

合同会議を終了した後は、「第3回審判ルール委員会」「第3回記録委員会」を開催。この合同会議・両委員会を終えた翌週から続々と開催される各地区(ブロック)での「伝達研修会」へ向け、伝達における「徹底事項」の確認に多くの時間が割かれた。

## 審判ルール委員会

審判ルール委員会では、来るべき「地区伝達研修会」へ向け、次の事項が重点的に確認され、その徹底を図っていくこととなった。

### 1. 試合のスピードアップ

これは従前からすでに指導を行って  
いることではあるが、さらなる攻守交代時のスピードアップを図り、伝達研修を行うよう徹底が求められた。

インニングの攻守交代は「第3アウト」の成立時からじまっており、**第3アウト成立から1分以内に「プレイ」をかけるようにすること**、日本リーグでは**ちようど1分のBGMを流し、その目安とする**とともに、**攻守交代が1分を超えそう**なときは、**所定の準備投球数(試合開始時、投手交代時5球、各インニング間3球)に達して**いなくても「ラストボール」とコールし、試合を

進行させるよう**厳格に指導していく**ことが改めて確認された。

また、現状では予算や試合会場の数、施設的な問題もあり、**20秒タイマーを全試合会場に設置するのは難しい**状況にあるが、**副審がストップウォッチで20秒を計測し、合図や音等で知らせ、ペナルティの対象**とすること等を検討し、**スピードアップの一助**としていくことも討議された。

また、選手間の打ち合わせは**1インニング1回**とし、相手チームがタイムを取って打ち合わせしている間に、もう一方のチームが打ち合わせを行っている場合も、**タイムを取って打ち合わせをしたチームが終了したときに、すぐにやめさせるよう指導する、長引くようであれば打ち合わせとみなす**こともある、**ことが再確認**された。

### 2. 特に徹底すべき事項

#### (1) 組織決定・機関決定の遵守

ルール・実技の地区伝達研修の内容は日本協会として組織決定・機関決定して統一されたものであり、**日本全国どこへ行っても統一されたルール、基本動作、ローテーション等を遵守**していくことが大原則であり、各地区(ブロック)、あるいは各支部(都道府県)

で独自の解釈や変更を加えることなく、**正確に伝達**していくことが徹底された。

#### (2) 基本動作

「**競技者必携**」に掲載されている基本動作を忠実に守り、**日本全国どこへ行っても同じストライクゾーンで統一**され、球審・塁審の構え、ストライクアウト・セーフのゼスチュアが揃い、**同じものとなるよう指導**してほしい。

#### (3) ローテーション

これも「**競技者必携**」に掲載されているものを基本とする。

基本動作にしてもローテーションにしても**安全性(自らの身を守るため)**や状況に応じた「応用編」もないわけではないが、**まずは「競技者必携」を基本とし、それに忠実に伝達研修を行う**っていくことを願う。

#### (4) ケースブック

来年2月の発行をめざし、それぞれの役割分担やタイムスケジュールが確認され、**従前とは違った取り組み(写真や動画の活用・掲載)**等についても討議され、「改訂第7版」の作成へ向けた準備が進められた。



審判ルール委員会(右)、記録委員会(左)、それぞれの委員会で「地区伝達研修会」や今後の課題について熱心に討議された

## 記録委員会

記録委員会では、まず前回の委員会の議事録が確認され、2024年の大会を振り返り、反省点や課題が洗い出され、次なるシーズンに活かしていくと前向きな討議が行われた。

また、この委員会の直後にはじまる「地区伝達研修会」(ブロック研修)へ向けて、記録委員会の「統一事項」「スコアカード点検の留意点」「Drop boxの活用」「windmillの留意点」等が改めて確認された。

### 1. 統一事項

- (1) 公式記録員手引「公式記録員の役割と心得」を遵守すること。
- (2) 試合会場に記録集計本部を設置し、コピー・パソコン・プリンタ、及びWifi環境等を準備すること。また、Drop boxを有効に利用し、情報の共有化に努めること。
- (3) 事前研修会に参加し、スコアリングマニュアルの確認を始め、様々な事例に対応できるよう努めること。
- (4) 記録員は「先発完投形」を原則としながらも、記録員の育成にも配慮すること。
- (5) 審判記録会議には必ず出席し、

競技規則等の確認をすること。

(6) 前日までの準備が大会成功の鍵となるため、機器の点検やPC集計のためのチーム名や選手名などデータ点検は必ず行うこと。

(7) 試合当日は定められた時間に集合し、全体朝礼や記録員朝礼に参加すること。

(8) スコアカードは関係各所に提供するため、コピーやスキャナーを利用するので、鉛筆またはシャープペンシル(B、2B)を使用し、文字は楷書で丁寧に書くこと。

(9) 試合前には、担当審判員・放送員とのミーティングに参加し、連携を密にすること。

(10) 打球等への「発声」を心掛け、ブレイに対する正しい記録を残すこと。

(11) 記録帳票(特に3号、4号)の提供には間違いやモレが無いよう事前に点検を行うこと。

(12) 報道関係へはすべて記録本部から連絡・回答すること(報道責任者と連携する)。なお、報道関係者の要望には可能な限り応えること。

(13) 降雨等でグラウンド状態が悪く、整備が行われるときには、積極的に参加し、試合の進行に協力すること。

併せて「資格制度」の徹底についても、全日本大会、地区大会、支部大会での記録は、決められた資格者が担当

することが改めて確認されたが、その一方で全日本大会の初日は試合数・会場数が多く、「第1種」資格取得者が少ない支部では現実的・物理的に厳しい状況もある。JDリーグ、男女日本リーグでは「第1種」のステータスを保ちたいが、全日本大会においては記録長が認めた者であれば可能にする等の緩和策も議論された。

### 2. スコアカード点検の留意点

スコアカードの点検は手順を決め、短時間で終わるよう要領よく行う必要があり、次の順番で点検を行うことが改めて確認された。

ボックス↓交代↓集計↓その他

「見すると「当たり前」のことに思えるが、その「当たり前」のことを、常に「確実」に「正確」に実行し、積み上げていくことが「公式記録員」の「使命」であり「責務」であることを忘れてはならない。

### 3. Drop boxの活用 windmillの留意点

今では公式記録員の記録集計業務において「なくてはならない」存在となった「windmill」。そのインストー

ル手順、基本的な操作方法について確認され、その「windmill」によって作成されたデータを「Drop box」で共有することで、記録集計業務が飛躍的に効率化すること等、その「メリット」が改めて強調された。

実際の記録委員会での活用事例、全日本大会、JDリーグ、男女の日本リーグでの実践事例を紹介しながら、各地区(ブロック)、各都道府県での積極的な導入・展開と定着をめざして研修を進めていくことが確認され、意思統一が図られた。

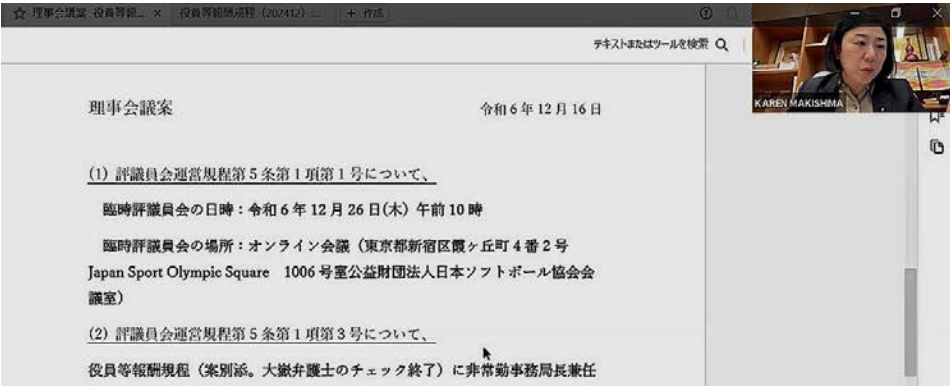
### ・その他

規程上、「第3種」↓「第2種」↓「第1種」の取得に、「1年」(365日)空けなければならぬが、「1日足りない」「1週間足りない」場合の救済措置として「応答月」とすることが協議・検討された。また、チームスコアラールとして記録の基礎知識のある者は「第2種」からの「飛び級」の受験を認めてはどうかとの意見が出され、討議された。

最後に、JDリーグが1日3試合となり、作業時間が長くなることが予想され、Wifiの使用中に電源が切られてしまうこと等ないように、JDリーグスタッフや開催地と密に連携を図ることが留意点として挙げられ、徹底された。



12月16日、臨時理事会が招集された



# 令和6年度臨時理事会議事録

審議に先立ち、本理事会は完全オンライン形式（Zoomミーティング）により、出席者が一堂に会すると同等に適時・的確な意見表明が互いのできる状態となっていることを確認。理事25名中出席18名（欠席7名）、出席監事2名で定款第36条に基づき本理事会は成立することが確認され、臨時理事会が開始された。

## ● 審議事項

### 第1号議案

#### 臨時評議員会の招集について

牧島会長より「役員等報酬規程の改定」について、次の日時及び場所で開催することを提案された。併せて評議員会の議案内容については前回の理事会時と変更はなく、大嶽弁護士によるリーガルチェックの結果、文章表現の変更と追加をしていることが説明され、確認が求められた。

#### 【臨時評議員会開催日時】

・日時…2024年12月26日（木）  
10:00～10:30

・場所…完全オンライン形式  
・議題…役員等報酬規程の改定について

続いて岡本専務理事兼事務局長より、評議員会においては、決議した評議員会の目的である「役員等報酬規程の改定」についてのみ決議を求めることが説明・確認された。

ただし、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第185条」、この法人の「評議員会運営規程第9条第2項」に基づき、評議員から、評議員会において、評議員会の目的である事項に限り、議案が提出される可能性もあることが併せて説明され、確認・了承された。

以上の提案・説明があり、審議の結果、「第1号議案」は**全会一致で原案通り承認**された。

最後に牧島会長より、師走・12月、年末の多忙を極める時期に理事会招集・参加への謝意が述べられた。  
また、26日に臨時評議員会を招集することに關しても理事各位の協力に感

期日…令和6年12月16日（月）  
15:00～15:10  
開催方式…インターネット  
会議方式  
理事現在数…25名  
出席理事…18名  
欠席理事…7名  
出席監事…2名  
欠席監事…1名  
議長…会長 牧島かれん

謝するとともに、臨時評議員会当日の参加・協力が改めて要請され、臨時理事会を終了した。



臨時理事会への参加に謝意を述べる牧島会長

# 令和6年度臨時評議員会議事録

12月26日には臨時評議員会が召集された



審議に先立ち、本評議員会は完全オンライン形式（Zoomミーティング）により、出席者が一堂に会すると同等に適時的確な意見表明が互いのできる状態となっていることを確認。評議員54名中出席32名（欠席22名）、定款第6章23条に基づき本評議員会は成立することが確認され、臨時評議員会が開始された。

## ● 審議事項

### 第1号議案

#### 議長の選出について

牧島会長より、定款第22条3項に基づき、出席評議員の中から議長を選出することが説明され、高知県・池澤良介評議員から鹿児島県・久保山正志評議員を推薦する提案があり、**全会一致で承認**。久保山評議員が今回の臨時評議員会の議長を務めることとなった。

### 第2号議案

#### 議事録署名人の選出について

議長より、議事録署名人の選出につ

いて、神奈川県・松山玲子評議員、山口県・秋枝英行評議員の選出・任命が提案され、**全会一致で承認**された。

### 第3号議案

#### 役員等報酬規程の改定について

牧島会長より、第3号議案「役員等報酬規程」の改定について提案され、審議が行われた。

審議の結果、「第3号議案」は**賛成多数で承認**された。

最後に岡本専務理事兼事務局長より、年末の多忙な時期にも関わらず、臨時評議員会の召集・参加してくださったことに謝意が述べられた。

今後、緊急措置的・暫定措置として私（岡本専務理事）が「事務局長兼任」となるが、何とか事務局体制を立て直し、「アスリートファースト」「すべてはソフトボールのために」の原点に立ち返った協会運営・組織運営を実現していきたいとの決意と意欲が語られ、評議員はもとより全国各都道府県協会の皆さまに支援・協力が求められ、臨時評議員会を閉会した。

令和6年度臨時評議員会議案

令和6年12月26日

他の公的資格を有する外部専門家に役員を委嘱する場合、当法人は、当該専門家の報酬基準に照らし、理事会、委員会等の会議への出席に対し、相当の報酬を支給することができる。」と役員等報酬規程に規定している。

④財政基盤が課題のこの法人では、外部理事・外部監事（業務執行理事を除く。）で、国家資格を持つ専門家に、これまで通常に理事・監事として行っていた業務（本部の業務、専門委員会（部会を含む。）、専門委員会の延長上のプロジェクト、講演・研修の講師及び監査業務全般等）について、当該専門家の報酬基準に照らした報酬を支払う余力はなく、他の理事・監事との公平性を勘案して、これまでどおり、旅費規程に定める日当（2,000円）のみ

臨時評議員会では「役員等報酬規程」の改定が審議され、承認された

期日…令和6年12月26日（木）

10:00～10:30

開催方式…インターネット  
会議方式

評議員現在数…54名

出席評議員…34名

欠席評議員…22名

理事現在数…25名

出席理事…16名

欠席理事…9名

出席監事…2名

欠席監事…1名

# 令和6年度第9回理事会議事録



審議に先立ち、本理事会は会場集合方式とインターネット会議方式（Zoomミーティング）の併用とし、出席者が一堂に会するのと同等に適時的・的確な意見表明が互いに行える状態となっていることを確認。理事25名中出席23名（欠席2名）、監事出席2名（欠席1名）で定款第36条に基づき本理事会は成立することが確認され、理事会が開始された。

## ● 審議事項

### 第1号議案 令和7年度事業計画案

瀬戸山常務理事・総務委員長から、「令和7年度事業」について公益目的事業会計、収益目的事業会計、法人会計ごとの事業計画案が提案された。

続いて評議員会、理事会、常務理事会、専門委員会等の会議日程案が提示され、国際大会派遣、視察・情報収集等の「令和7年度選手強化事業計画案」が併せて説明された。

全日本大会日程については、男子クラブ選手権の開催時期が「第18回男子

期日…令和7年1月26日(日)  
13:00～14:30  
場所…東京都新宿区/Japan Sport Olympics Square及びインターネット会議方式併用  
理事現在数…25名  
出席理事…23名  
欠席理事…2名  
出席監事…2名  
欠席監事…1名  
議長…会長 牧島かれん

ワールドカップファイナル」開催の影響で9月にズレ込んでいるが他は例年通り。会場の都合で4日間開催が増えていることが補足説明された。

最後に西常務理事・リーグ委員長から男子・女子の日本リーグ日程案が説明され、審議が行われた。  
審議の結果、「第1号議案」は原案通り承認された。

### 第2号議案 令和7年度収支予算案

石井常務理事・財務委員長から「令和7年度収支予算案」が次のように説明された。

全体で経常収益が5億9千284万8900円、経常費用が6億4千15

3万4600円、当期経常増減額は4千868万5700円のマイナスとなることが説明された。

決算においては、黒字化するために収入増加を図り、すべての事業においてより一層の節約が必要であることが強調された。

「公益目的事業」における「収益」での主な特筆事項として、受取登録料が登録数の減少により約388万円の減、事業収益における登録減に関連する審判・記録認定料、出版事業、物品販売収益で約894万円の減となることが説明された。

「公益目的事業」における「費用」での主な特筆事項として、旅費交通費が価格高騰している状況ではあるものの、節約やリモートを活用することで一律10%の減、併せて旅費規程の改定により車を利用した移動に関する適用に制限を設けても941万円の増加が見込まれ、令和6年度と同様の利用があったと想定すると、この予算では収まらないことが予想されるため、当協会事業に関係するすべての理事・委員・競技役員が節約を心掛けることが必要であることが説明された。

「選手強化事業」については、国際大会数の増加により4千740万円の増、海外強化合宿の実施で3千41万円の増となり、国内強化合宿では事業

数を減らしたが価格高騰による影響を受け、238万円の増となることが説明された。

「収益事業等会計」における「収益」の特筆事項は、令和6年度に機関誌をデータ化・オンライン発行としたことによる個人購読料の減、また、令和6年度に検定・推奨公認料の算出方法を大幅に見直したことによる減収で928万円の減となった。

「法人会計」における「費用」の特筆事項は、国際関係で航空運賃の高騰により504万円の増。また、法人専門委員会旅費交通費、その他旅費交通費についても、令和6年度同様、価格高騰が見込まれるが、節約やリモートを活用することで一律10%減、約150万円増の予算としている。公益旅費交通費と同様、これまで通りの運用とした場合、この予算では収まらないことが予想されるため、すべての役員・委員が節約を心掛けることが必要であることがここで強調された。

4千868万円の赤字となる根拠は、（1）12月時点では個人登録料の生涯種別重複免除の解除を見込んでいた。

（2）ワールドゲームズ（男子TOP、女子TOP出場予定）がJOC（公益財団法人日本オリンピック委員会）選手強化委託金の対象外となり、協会自己負担となった。

以上の予算立案・予算算出根拠が説明され、審議が行われた。

審議の結果、今後さらなる経費節減に努め、新たなスポンサー獲得による収入増に努力していくことを確認した上で、「第2号議案」は原案通り承認された。

### 第3号議案

#### 総務委員会提案・報告事項について

瀬戸山常務理事・総務委員長から、全日本大会地区割当案、使用球割当案、開催委託金が提案された。

併せて物価上昇並びに温暖化の影響による夏季大会の暑熱対策経費が新たに発生していることから、大会参加料を一律1万円値上げすることが提案された。

また、男子総合選手権（天皇盃）の委託金が突出している点について、令和7年度はこの金額とするが、次年度以降に向けて引き続き協議していく予定であることが説明された後、審議が行われた。

この提案に付随し、大会参加費の値上げについて、参加枠が「48」もしくは「32」となっていて、大会によっては参加チーム数が当初予定を下回り、想定していた参加費より減額となって

しまうこともあり得るので、各大会の参加枠について総務委員会で登録チーム数を確認の上、再考してほしいとの要望が出された。

この点については引き続き総務委員会で協議していくことが確認され、審議の結果、「第3号議案」は原案通り承認された。

### 第4号議案

#### 第33回全日本実年大会代替大会の費用補填について

瀬戸山常務理事・総務委員長から、大分県で開催予定であった「第33回全日本実年大会」が悪天候により中止となり、福岡県北九州市で「代替大会」を開催した件について、「代替大会」となったことで参加チームが減少し、赤字となったことが説明・報告された。この「代替大会」の日本協会による赤字補填が提案され、審議の結果、原案通り承認された。

### 第5号議案

#### 日本スポーツ協会役員改選について

岡本専務理事兼事務局長から、JSP（公益財団法人日本スポーツ協会）の役員改選に伴い、日本協会から新た

に木田京子理事を推薦することが提案された。

木田理事は全日本大学連盟の専務理事でもあり、女子TOP日本代表のアシスタントコーチ、女子大学日本代表、女子U18日本代表のヘッドコーチ等を歴任。JOCの強化スタッフを務める等、トップレベルでの競技経験・競技実績を有している方であることが改めて説明され、審議が行われた。

審議の結果、「第5号議案」は原案通り**承認**された。

### 第6号議案 旅費規程の改定について

岡本専務理事兼事務局長から「旅費規程」における車を利用した移動について改定が提案された。

J.D.リーグ等の派遣審判が必要な審判用具等、どうしても荷物が多くなることから家用車を利用して移動するケースが多いが、JSAが掛けている保険は大会保険で、行き帰りの移動の事故については対象外となっていることが説明された。

仕事を終えての開催地への移動や大会参加後の移動に伴う運転の体力的な負担、心理的ストレスやご家族の心配等も考慮し、片道100km以内に限定し、それを超える場合、車での移動は

認めず、交通費の支給は行わない内容に規程を改めることが提案された。

これにより事務局員の領収書の提出等事務作業が軽減され、公共交通機関を利用することで経費節減にもつながることから今回の提案に至ったことが説明され、審議が行われた。

審議の結果、「第6号議案」は原案通り**承認**された。

### 第7号議案 事務職員評価制度について

岡本専務理事兼事務局長から、事務局職員評価制度の導入について提案された。

事務局員に対する公平性、納得感のある人事評価をしなければならず、その方法・内容に精査・吟味が必要なことから、実施は来年度からとし、今年度については専務理事兼事務局長が一人ひとりと綿密なコミュニケーションを取っていくことが説明された。この説明に対し、評価者が「一次評価者」1名となっているが、評価に感情が入ると本人に不利益となる可能性があり、複数名による「二次評価」が必要ではないかとの意見が出された。

これに対し、現時点では「二次評価」は専務理事兼事務局長が行い、「二次評価」を会長が行う構想であり、将来的

には課長等、事務局現場管理職が評価する形も想定しているが、現状ではまだそういった経験もないことから、4月1日から専務理事兼事務局長が事務局管理職に引き継ぎながら「一次評価」を行い、会長が「二次評価」を行っていく考えであることが説明された。

まずは「やってみる」ということ、事務局の皆さんと密なコミュニケーションを図るところからスタートし、上からの評価だけでなく、事務局員の皆さんからも評価してもらおう「360度評価」についても将来検討してほしいとの意見・要望も出された。

これらの説明、意見・要望を受け、審議が行われ、審議の結果、「第7号議案」は原案通り**承認**された。

### 第8号議案 女子U15アジアカップ チームリーダーについて

岡本専務理事兼事務局長から「第2回女子U15アジアカップ」チームリーダーとして宇津木妙子副会長を推薦することが提案され、大会開催期間3月26日～30日、大会派遣期間は3月23日～31日となり、台湾で開催されること

が併せて説明され、審議が行われた。審議の結果、「第8号議案」は原案通り**承認**された。

### 第9号議案 生涯種別の複数登録における 個人登録料について

岡本専務理事兼事務局長から、前回の理事会で承認された「生涯種別の複数登録における個人登録料」について、その後、各都道府県の皆さんから厳しいご意見を頂戴しており、再度検討してはどうかとの提案があった。

日本協会の財政が非常に厳しいものであることは、これまで審議していただってきた通りだが、登録料改定から2年足らずで再び改定するのは時期尚早とのご意見や各チームに説明するために少し猶予がほしいとの意見を考慮し、前回理事会での決定・承認を差し戻すことが提案された。

これらの説明を受け、審議が行われ、「第9号議案」は**承認**されたが、日本協会の財政は「待ったなし」の状況であり、実施時期を検討し、いずれは実施する方向性であることが改めて確認・了承された。

### 第10号議案 倫理コンプライアンス委員会 審議事項について

岡本専務理事兼事務局長から、倫理

コンプライアンス委員会協議結果をもとに次の提案がなされ、各案件の詳細が説明された。都合4件の案件について審議され、倫理コンプライアンス委員会での協議内容・決議通りの処分となることが了承された。

また、倫理コンプライアンス委員会で「処分なし」となった案件は常務理事会、理事会への提案はしなくても良いかが諮られ、「第10号議案」は原案通り承認。「個人情報保護」の観点から当該議案資料は理事会終了後回収された。

**第11号議案**

**リーグ委員会委員の変更について**

西常務理事・リーグ委員長から、男子リーグのリーグ委員である平林金属・吉村啓監督が昨年末をもって監督を退任したことから、男子リーグ委員に欠員が出たため、後任としてトヨタ・江口真史監督をリーグ委員とすることが提案され、審議の結果、「第11号議案」は原案通り承認された。

**第12号議案**

**選手強化本部提案・報告事項**

松田常務理事・強化本部長から、女子TOPの第2次国内合宿（3月に沖縄で実施予定）を中止とすることが提

案された。

これは同時期に、当初予算に入っていなかった「第2回女子U15アジアカップ」が開催されることもあり、女子U15強化事業を優先し、女子TOPの第2次国内合宿実施を見合わせる判断をしたことが説明された後、審議が行われ、審議の結果、「第12号議案」は原案通り承認された。

**第13号議案**

**令和6年度終身審判員の推薦について**

推薦について

神谷常務理事・審判ルール委員長から終身審判員58名が推薦・提案され、「第13号議案」は原案通り承認された。

**第14号議案**

**令和6年度終身記録員の推薦について**

西常務理事から、終身記録員17名が推薦・提案され、「第14号議案」は原案通り承認された。

**第15議案**

**令和6年度第2回定時評議員会の招集について**

岡本専務理事兼事務局長から「令和

6年度第2回定時評議員会」開催について、次のように提案された。

日時：令和7年2月23日（日）

13時～

会場：品川プリンスホテル

以上が説明・提案され、「第15号議案」は原案通り承認された。

**●報告事項**

**1. 各委員会・プロジェクト報告**

**(1) 審判ルール委員会**

神谷常務理事・審判ルール委員長から、昨年11月30日・12月1日の両日に行われた「第2回審判ルール委員会」審議内容の詳細が報告された。

同委員会では、リーグ審判員の審査とルールブック及び必携の見直しの最終確認を行ったこと。また「令和7年度第1種公認審判員認定会」開催日程とJ.D.リーグ及び日本女子リーグ担当審判員合格者名簿が提出され、報告された。

**(2) 技術委員会**

亀田理事・技術委員長から、内外ゴム製ソフトボール試合球（革製）検定

3号の検査結果について、「合格」であったことが報告された。

また「新意匠ゴムボール」のプレスリリースを2月23日、令和6年度「第2回定時評議員会」終了後に行うことが報告され、記者発表時に評議員の方にも残っていただき、配布資料をもとに各都道府県に展開・PRしていくことが報告された。

**(3) リーグ委員会**

西常務理事・リーグ委員長から、12月20日に「第3回リーグ委員会」を開催し、令和6年度の反省と令和7年度にそれをどう活かしていくかについて議論したことが報告された。

また、1月29日に「第4回リーグ委員会」を開催し、男子リーグ・女子リーグの規程変更について検討。次回理事会に提案予定であることが報告された。

**(4) アスリート委員会**

佐藤理事・アスリート委員長から、「第1回アスリート委員会」を12月11日に開催したことが報告された。

アスリートの現場の声を大切にして、その意見を組織に反映させていく意向であることが説明された。

また「現場の声」として、男子アスリート委員より、男子TOPカテゴリの選手強化予算が不足しており、選

手個々が海外遠征・国際大会への参加を実施する等、懸命の努力を続けているが、選手個々の立場では職場への休暇申請等が難しいこともあり、個人の努力には限界があるとの切実な「声」が紹介・報告された。

こういったときに、日本協会として派遣依頼を出してもらえないか、との要望が出ていることが報告され、アスリートの意見を共有し、より良い方向に進めていくことができるよう、日本協会への支援・協力が要請された。

これらの報告を受け、対象選手から日本協会宛に必要な文書を提出(日本協会から指示・要請されたコンプライアンスに関する内容を含めた必要事項を明記し、文書で申請)、それを受け日本協会から所属に文書を出す流れで実現できるよう検討していくが、派遣に対する責任の所在等、難しい問題もあることを理解していただきたいとの説明がなされた。

(5) Baseball5

山田理事より、現在はBFJ(一般財団法人全日本野球協会)が中心となり「Baseball5」を運営しているが、日本協会からも協力を拠出している。「第1回全日本選手権」が昨年2月に行われ、本年1月中旬に「第2回全日本選手権」を開催。毎年参加チ

ームは増加傾向にあり、少しずつではあるものの、競技人口も増えている。

また、この競技にスポンサーも付き始めているので、日本協会のスポンサーにもなってもらえたら……と個人的に思っており、「Baseball5」が直接ソフトボール競技の普及につながるか否かは置いておき、違う形で日本協会にメリットがあるような形を模索したいと考えていることが報告され、「第2回全日本選手権」については次回理事会で詳細を報告する予定であることが説明された。

2. その他

(1) J.D.リーグ事務所  
移転について

岡本専務理事兼事務局長より、J.D.リーグ事務所移転について、先日の理事会で承認され、4月の第3週に移転したいとの要望が出されているが、日本協会の業務多忙時期と重なるため、ゴールデンウィークあたりに変更をお願いしていることが報告された。

また、J.D.リーグの新事務局長に井原敦氏(NPB/一般社団法人日本野球機構前事務局長)が就任されたことが併せて報告された。

(2) 日本協会事務局職員採用について

岡本専務理事兼事務局長から、事務局職員募集状況について説明され、4名の面接を行い、4名とも採用候補としたが1名辞退されたことが報告された。今後、会長、副会長と相談して予定通り3名にするのか、4名にするのかを決め、4月には新規採用を行う方向で検討していることが進捗状況と併せ、報告された。

最後にJOC理事であり、元日本スケート連盟副会長でもある日本協会・伊東副会長より、イタリアのトリノで開催された「ワールドユニバーシティゲームズ」に团长として派遣され、理事会前日に帰国。メダルを期待できるスピードスケートとジャンプ競技が実施されなかったが、金メダル7つ、団体戦では女子アイスホッケーやカーリングがメダルを獲得し、非常に盛り上がった大会であったことが報告された。

ソフトボールにおいても財政再建、財務健全化に向け、スポンサー獲得等に精力的に活動する意欲と決意を語り、閉会した。



# 事務局だより

## 球春は、すべしっ！

2025年もはや3月半ばにさしかかり、いよいよ「球春」が間近に迫る時期となった。

例年同様年度末開催される「春の全日本大会」（※高校生／全国高校選抜大会、中学生／都道府県対抗全日本中学生大会、小学生／春季全日本小学生大会）を皮切りに、本格的なシーズンの幕開けを迎えることになる。



「春の全日本大会」を皮切りに、新シーズンの幕が上がる！

- ・ 3月21日（金）～24日（月）  
高校選抜女子／長崎県大村市
  - ・ 3月22日（土）～25日（火）  
高校選抜男子／千葉県成田市
  - ・ 3月27日（木）～30日（日）  
春季小学生女子／岐阜県揖斐川町
  - ・ 3月28日（金）～30日（日）  
都道府県対抗中学生男子  
／宮崎県宮崎市
  - ・ 都道府県対抗中学生女子  
／群馬県伊勢崎市
  - ・ 3月29日（土）～31日（月）  
春季小学生男子／奈良県奈良市
- ※他2市で開催



女子に先がけ、男子リーグが一足早く開幕

4月に入ると、4年目のシーズンを迎える「J.D. LEAGUE」そして「男女日本リーグ」も開幕。その中で今シーズンは「日本男子リーグ」の開幕が一番早く（※4月11日（金）～13日（日）の3日間、広島県尾道市に全18チームが集結し、第1節を開催、続いて「J.D. LEAGUE」が4月12日（土）、岐阜県大垣市・愛知県安城市・滋賀県甲賀市・愛媛県松山市の全国4会場でレギュラーシーズン開始。「日本女子リーグ」は4月19日（土）・20日（日）の両日、石川県金沢市を舞台に第1節が開催され、全12チームで熱戦の火蓋が切られる予定となっている。

女子リーグも熱戦を期待したい！！



J.D. LEAGUEは4年目に突入！